

第4章

朱氏頭皮針の操作手技

第1節 | 操作手技の基礎知識

針灸は人類の医学の歴史のなかで最も古く、また現代においてもなお注目される総合的な医学である。その歴史の始まりは、文献の記録によれば5千年も昔に遡ることができる。現代は地球村ともいうべき情報化の進んだ世界にあらゆる人間が生活しているが、そうしたなかでさえ針灸の臨床は広まりつつある。悠久の歴史が証明するように、針灸医学には完全に系統だった理論と、精巧で複雑高度な臨床技術がある。なかでも長年にわたる臨床実践と経験の蓄積があるということは貴重である。

さらに針灸医学には実用性・広範性・国際性・科学性が突出している。しかし、いかなる事物も再現性を得るには、一定の訓練が必要である。それは学習—理解—学習—熟知—学習—応用—向上の繰り返しである。針灸医学を研究するにはこの条件を満たさなければならない。俗に「厳しい寒さを経て、はじめて蠟梅は香を発することができる」という言葉がある。かつて中医学のことを何も知らずして「中医学は偽科学」と主張するある人がいたが、正当な理由なくして中医学を批判することは正しくない。中医学に限らず、何ごとも正確に認識してこそ、批評も評価もできるのである。

現代において、針灸の優れた専門家になろうとするなら、中医学と西洋医学の両方を身につけなければならない。それを基礎にして、さらに熟練した針の操作技術を身につけ、ようやく高度な臨床として実際に利用する

ことができるのである。

そのことを踏まえたうえで、本章では朱氏頭皮針の具体的な操作技術のポイントを紹介しよう。

1 針具

筆者は朱氏頭皮針専用の針柄の短いステンレス針を使用している。針体は細くて柔らかく、刺針・運針・留針に都合がよい。その規格は、太さ32～38号までで、長さ0.5～0.8と1.2寸(0.16×18mm, 0.20×20mm, 0.22×30mm)の針を筆者自らが開発して使用している。この規格に類似した針であれば、頭皮針の操作手技や留針がやりやすいであろう。あるいは30号, 32号の1寸あるいは1.5寸の針で代用してもよい。

もし慢性病・昏迷・意識混濁・実熱証の場合なら、1.5寸の28～30号の柄の短い中国針を使用するとよい。

2 体位

頭皮針療法では、患者は一般に坐位で治療を行うが、ときには立位で行うこともある。もし患者が病弱であったり、全身の麻痺・昏迷があれば、仰臥位で行ってもよい。坐位または立位で頭皮針を行うときは、施術者は患者と向かい合って立つ。この位置であれば、施術者は正確に取穴でき、操作と導気を行うのに都合がよい。

3 消毒

施術前に患者は感染を防ぐため頭皮をきれいに洗い、乾燥させておく。施術する部位をまず2%のヨードチンキで拭いて、乾綿で拭くか、あるいは直接に75%のアルコール綿で拭く。施術者は施術前に手指を石鹸できれいに洗うか、アルコール綿で拭いておく。